

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。
長い梅雨がが続いていますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動していきます。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

1 橿原市議会で「かしはらオーガニック」が取り上げられました

■ | ■ 橿原市議会で「かしはらオーガニック」が取り上げられました

6月22日の橿原市議会で「かしはらオーガニック」が取り上げられましたので紹介
します（関係の大きい部分を抜粋しています）。

◆議員からの質問

昨年3月本市は、子どもの健全育成や地産地消の推進に向け、一層の活用を図る
ために、給食に地場産の農産物を活用する三者協定を、県農業協同組合橿原営農
経済センターと農家らでつくる「かしはらオーガニック」と結びました。この締
結から1年以上経ちましたが、具体的にどのような動きがあったでしょうか。農
業振興面での変化はあったでしょうか。

◇都市デザイン部長からの答弁

これまでの取り組みとしましては、協定書の目的を達成するための基本的な方向
性の確認を目的とした協定締結三者による合同会議を開催するとともに、かしは
らオーガニックさんが提供可能な食材納品に関する打ち合わせを実施してきまし
た。変化としては、学校給食に使用された地場産農産物が6品目増加したことが
挙げられます。農業振興面における変化は、残念ながら明確には表れていないと
いうのが現状です。

◆議員からの質問

三者協定では、地場産食品の中でも有機農業による農産品活用も謳われています

が、そこはまだ進んでいないようです。有機農業の推進は橿原市の農業を次になげられる試みだと考えています。そのような栽培方法の野菜を給食で採用することがきっかけで、子どもたちや地元の方々に取り組みを知ってもらい、地元の農産品に興味と愛着を持ってもらうことは、農業振興の上で大変重要だと思います。有機農産品の給食への採用とブランド化を並列して実現できないでしょうか。

◇都市デザイン部長からの答弁

橿原市第4次総合計画において、農業の目指すべき姿として、持続的で魅力のある農業が行われる市民が地元の農産物に愛着を持っていることを掲げており、その取り組み例として位置づけられた地産地消、ブランド化、安全な農産物の生産支援、学校給食での活用等の推進につきましては、市の農業政策として取り組んでいかなくてはならないと認識しております。地場産の有機農産物の給食への活用には、食料の安定供給、価格、品質保証等の様々な課題はありますが、教育委員会をはじめとした関係機関と連携し、少しずつでも実績を積み上げていくことで農業振興にもつなげ、地元の子どもたちや市民のみなさんからも地元農産物に愛着を持ってもらえるように、その結果としてブランド化が見えてくるような取り組みを着実に進めていきたいと考えています。

◇市長からの答弁

農地の減少は、担い手となる農業従事者不足も要因のひとつであると考えております。農地は農作物の供給のみならず、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など多面的機能を有していることから、守っていかねばならない大切なものであると認識しています。私も子どもたちが市内で作った農産物を、安心しておいしく食べてもらいたいと強く思っております。市内小中学校、有機を含め栄養価の高い食材を100%学校給食に提供できないかということを常に検討しております。市としてできること、民間団体とのネットワークの構築などに向けて、しっかりと取り組みを進めてまいりたい。販路が確定すると既存の農業従事者も新規就農者の確保にもつながる、それが地産地消、良好な環境維持、本市の農業のさらなる魅力にもつながっていくと改めて意義を再認識したところです。関係部署と前向きに意見交換をしながら、できるだけスピーディに検討を進めていきたいと考えています。

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)
E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com
facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>
事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (田原本町西竹田 33-1)
